

平成28年度

都市計画道路高知南国線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

わかみやのひがし  
**若宮ノ東遺跡**

記者発表及び現地説明会資料



日時 記者発表 平成28年11月11日(金) 14時～15時  
現地説明会 平成28年11月13日(日) 10時～11時

場所 南国市篠原の発掘調査現場

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

今回の発掘調査は、高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設工事区域内に所在する遺跡について、工事の影響を受ける部分を事前に発掘調査を行い、遺跡の内容を記録保存し、後世に伝えると共に地域の歴史解明に役立てようとするものです。

### (2) 事業主体

高知県中央東土木事務所

### (3) 発掘調査主体

公益財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター（高知県南国市篠原1437-1）

### (4) 調査場所

南国市篠原

### (5) 調査期間

平成28年8月15日～平成29年2月10日(予定)

### (6) 調査面積

約2,600㎡(予定)

### (7) 調査協力

高知県・高知県教育委員会・南国市・南国市教育委員会・地域の方々



周辺の遺跡地図

## 2 若宮ノ東遺跡について

若宮ノ東遺跡は以前から遺跡として知られていたものの、本格的な発掘調査は今回が初めてとなります。長岡台地の縁辺部に所在し、県内でも特に遺跡が多くみられる地域であり、周辺では発掘調査も多く行われています。若宮ノ東遺跡の北には小籠遺跡や祈年遺跡など弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居跡が多数検出された大規模集落も広がっています。

## 3 調査成果

### (1) 遺構

- ・ 弥生時代後期終末～古墳時代初頭の竪穴式住居跡(ST)を11棟、掘立柱建物跡2棟を確認した。
- ・ 弥生時代後期終末～古墳時代初頭の井戸跡と考えられる土坑を確認した。
- ・ 弥生時代後期終末～古墳時代初頭とみられる大型の柱穴を確認した。
- ・ 古墳時代または古代と考えられるL字状の溝跡を確認した。
- ・ 近世の大型土坑や墓跡を多数確認した。

### (2) 遺物

I区出土遺物 コンテナケース約145箱(約43,500点)

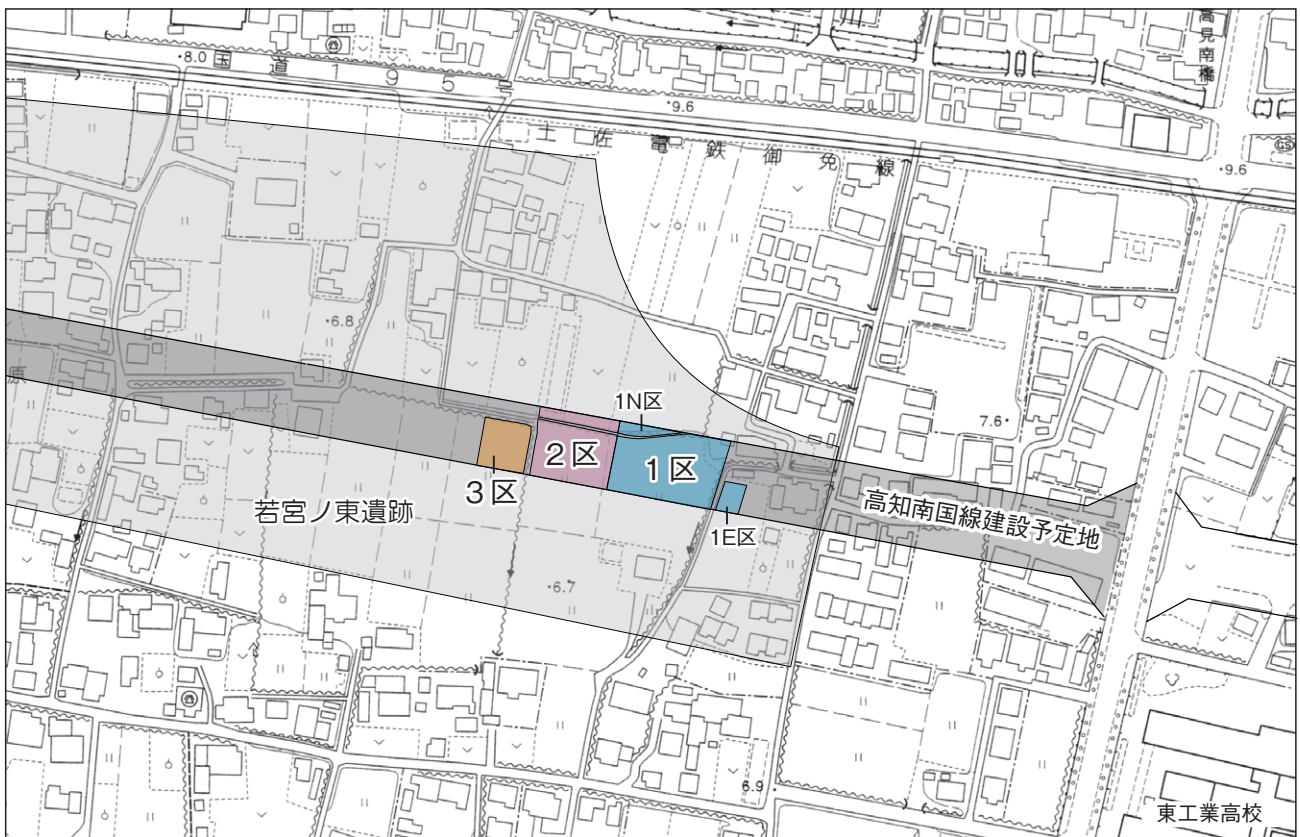
弥生時代 弥生土器(壺・甕・鉢・高杯・手づくね土器など)、鉄製品(鉄鏃)、土製品(紡錘車)

古墳時代 土師器(壺・甕)

古 代 須恵器(杯・蓋・甕など)、土師器(杯・皿)、緑釉陶器など

中 世 土師質土器(小皿など)、青磁(碗・皿)、瓦質土器(釜)、土製品(土錘)など

近 世 陶器(碗・皿・甕・播鉢など)、磁器(碗・皿)、金属製品(銭貨・煙管)、石製品(石臼)など



調査区位置図



主な遺構位置図(1区)

## 4 まとめ

### (1) 弥生時代終末～古墳時代初頭

遺跡の中心となる時期で、竪穴式住居跡からは非常に多くの遺物が出土しました。また、周辺の試掘確認調査の成果からも広範囲に広がる遺跡の可能性が高く、調査が進むにつれ大規模集落の姿が徐々に明らかになってくるものと思われます。また、大型柱穴列は大型建物に伴う可能性が高いと考えられますが、対応する柱穴が確認できていないため、現在のところ性格については分かっていません。大規模な遺構であることから集落の象徴的な建造物であったと考えられます。

### (2) 古墳・古代・中世

検出された遺構は多くありませんが、溝跡、土坑や柱穴を確認しており、集落の一部とみられます。土坑からは古代の高級品とされる緑釉陶器も出土しています。

### (3) 近世

この時期の遺構は比較的多く、調査区東部ではハンダ土坑や近世墓、調査区中央部では粘土採掘坑の可能性のある大型土坑が多数検出されており、屋敷地の周辺部にあたるものとみられます。



大型柱穴



ST2(南より)



ST5焼土検出状態(東より)



ST3遺物出土状態



ST8遺物出土状態



大型柱穴列(南より)



土師質土器小皿出土状態(土坑より)



作業風景